

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	認識人間学 I Epistemological Human Studies I				担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 青山 拓央			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	哲学・思想(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	木2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、分析哲学・科学哲学のさまざまな知見を解説する予定です(いわゆる「言語論的転回」や「全体論の意義などについてもお話しします)。『分析哲学講義』(ちくま新書)を参考書として講義を進めつつ、同書に記されていない様々な研究成果も、随時紹介していく予定です。									
【到達目標】									
分析哲学・科学哲学の基礎的な知識を得るとともに、言語と認識との関係について、さまざまな観点から理解を深める。									
【授業計画と内容】									
下記のテーマに沿って、言語と認識との関係を考えます(授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります)。									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・分析哲学とは何か(第1週~第2週)</li> <li>2. 言語の「意味」の客観性(第3週~第5週)</li> <li>3. 名前と述語の機能について(第6週~第8週)</li> <li>4. 文脈原理と全体論(第9週~第11週)</li> <li>5. 可能世界と形而上学(第12週~第14週)</li> </ol>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 青山拓央『分析哲学講義』(筑摩書房)ISBN:9784480066466									
【授業外学修(予習・復習)等】									
授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。									
【その他(オフィスアワー等)】									
教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。									